

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会
第7回まちづくり部会 議事録

日時 令和5年1月27日（金）13時30分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

出席者 （委員）

成田委員、川西委員、須賀委員、工藤委員、日野委員、勝間委員
（事務局）

堀井部長、中島参与、近間総括主幹、蓬田主査、井上次長、大澤総括主幹、
服部総括主幹

○部会長 皆さん、大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。
本日は第7回ということになります。前回までは、団体や企業の方々からお話を
聞き、その内容も踏まえて議論を進めてきたわけですが、議論をまとめるところ
までには至っておりませんので、そろそろ部会としても方向性をまとめられたら
と思っています。また、もう一つの部会である教育環境部会では、結論がまとめ
られたようですので、その内容についても、事務局から説明を受けて進めていき
たいと思います。まずは教育環境部会の議論のまとめに関し、事務局から情報提
供を受けたいと思います。事務局、よろしくお願いします。

○事務局 （事務局より資料に基づき説明）

○部会長 事務局から、教育環境部会の議論のまとめに関し説明がありましたが、その内
容について質問などはありませんでしょうか？

（なしの声あり）

○部会長 次に議論のまとめの方向性について協議するにあたり、これまでの議論の経過

をまとめておりますので、その内容について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 これまでの議論の経過について、事務局より説明を受けました。これまでの会議で発言のあった内容は網羅されているのかなと思います。ここからはこれまでの議論の経過を踏まえて、この部会の結論をどのようにまとめていくかということになります。これについても、議論のまとめの方向性について資料をまとめておりますので、事務局より説明をお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 まちづくり部会として議論をまとめないということにはなりませんので、何とか部会として結論を出したいと思っています。教育環境部会の結論はもう出ておりますので、その内容を睨みながら協議することも可能かと思います。さきほど事務局からも説明がありましたが、この部会のこれまでの議論としては、登別中学校は存続が必要というのが大勢だったと思います。これを基本にしながら、部会としての結論をまとめていきたいと思いますが、さらに皆さんから意見などはありませんでしょうか？

○委員 虎杖浜地区から生徒を受け入れるというような話がありましたが、虎杖浜地区というような小さな範囲で物事を捉えるのではなく、例えば室蘭市の喜門岱小学校のように、小規模特認校として、市内全域から生徒を受け入れることも選択肢のひとつになるのではないのでしょうか。また、登別中学校区は、温泉もあり、漁港もあり、観光客も多く訪れる国際色豊かな土地でもありますので、そうした特色を打ち出しながら、全国から子どもを受け入れるというような大きな規模で考えなければならないのではないのでしょうか。そうしなければ、1学年あたり20人増やすというのは難しいと思いますので。もう少し大きな規模で考えてはどうかというのが私の意見です。

○部会長 全国から生徒を集めることを考えてはどうかという意見だと思います。他に義務教育学校については、さきほど事務局から、教育委員会としてはそのような考えは持っていないということでしたが、この点については、どうでしょうか？

○委員 義務教育学校、小中一貫校については、5、6年前の地区懇談会でも、登別地区で小中一貫校を設置する可能性を市として検討するという話があったはずで、す。にもかかわらず、1学年2クラス、40人以上を条件に設定して、どんどん統合に向けてハードルを高くしている。小中一貫校を作らないというのが明らかですし、教育委員会は市民のために仕事をしているのか、文部科学省や東京のために仕事をしているのではないか。以上です。

○部会長 義務教育学校の可能性を考えるべきとのことですが。

○委員 私は以前から大規模校は良くて、小規模校が悪いという物言いは良くないと申し上げています。はっきり言って、一人あたりの先生から見れば、コストパフォーマンスが良いのは小規模校です。マンツーマンで教育をするのは、本当に凄いです。それを大規模校が良いというこの言い方は気に入らない。

○部会長 少人数、小規模校の良さがあるのではないかという意見ですが。

○委員 それは前から言ってるでしょう。

○部会長 他に皆さんどうでしょうか？

○委員 私は、登別中学校のまま存続させるべきとは言ってません。小中一貫校の可能性もあるのではないか、その可能性を検証してからでもいいのではないかとっています。この言い方だと、小中高一貫校はできないから統合すると言っているようなものです。現状から1学年40人にするのは無理なわけですから。もしそ

れが必要だというのであれば、市営住宅を建設するとか、移住者に100万円援助するとか、そういう政策もあるのではないかと。

○部会長 小規模校の良さがあるのではないかと、また、義務教育学校を設置して存続を図る方法はないのかということだと思います。

○事務局 教員として勤務した私自身の経験を少しお話ししたいと思います。教員として26年間勤務したうちの3年間は小中一貫校で勤務いたしました。正確に言うと、海外の小中一貫校、いわゆる現地の日本人学校で勤務いたしました。児童生徒数が全学年で160～170人程度、仮に登別小学校と登別中学校を一つにしたらちょうど同じくらいかなという規模です。1学年あたり20人弱ですので、コストパフォーマンスという言葉が適切かはわかりませんが、さきほど委員からもあったとおり、子どもたちに目が届きますし、教員としても非常に指導しやすい。ただ、やはり規模が小さいので、テストにしても、運動会や体育大会にしても、競争の場での達成感が得にくい。例えば、テストで上位になった子にも、小さな集団だから上位になっているというような感情があって、自己肯定感や自尊感情が非常に低く、そうした意味で成長があまり望めない部分がありました。子どもたちは現地駐在員の子息が多数なわけですが、さきほど申し上げたように、やはり競争環境という意味で課題がある環境ですし、社会性の育ちにくさという課題もあるので、中学校に進学する段階で奥さんと子どもだけを日本に帰す例が多かったです。その結果、中等部の生徒数が少なくなってしまうという状況もありました。実は私自身、妻と子どもを連れて赴任しておりますが、私の場合にはまだ子供が初等部在学中に日本に帰国したわけですが、仮に赴任期間が初等部と中等部を跨ることになっていけば、妻と子どものみを日本に帰すことを考えたと思います。

○委員 ですからやっぱり小規模校の良さもあるわけですね。後半の話は小規模校の問題点を中心になっていましたが、私の娘は12人程度の中学校を卒業し、高校に進学して、特に問題なく対応していました。ですから、小規模校のデメリットを

喧伝するのはおかしいと思います。

○部会長 小規模の良さが議論されていないのではないかとのことですね。

○委員 小中一貫校を設置する可能性をもう少し時間をかけて議論すべきだと思います。

○部会長 両部会に参加している方もいらっしゃいますが、いかがでしょうか？

○委員 今後の議論の方向性についてですが、登別中学校の存続が必要という点に関しては、この部会としては、議論のはじめからぶれていないと思います。ただ、学校を存続させるために、学校規模を適正化しなければならないというのは、本来、教育環境部会で議論する内容なのかなと思います。そういう意味で、部会を分けたにも関わらず、教育環境部会の視点が入ってしまっているのかなと思います。やはりこの部会としては、中学校を存続させるためにどのような施策が必要なのか、その点が重要だと思いますが、この議論の方向性にはその視点が薄いように思います。教育環境部会では、子どもの教育環境という一点をテーマに議論を行ってきました。教育現場の現状を考えた場合には、小規模化のデメリットもある。ただ、子どもの数自体が減ってきている中で、人数面で昔のような環境を確保しようとしても、それは無理なのではないか。生徒数が少ないながらも、子どもたちにデメリットが及ばないような教育をどのように作っていくのか。これは委員会本体で議論しなければならないと思っています。1学年20人増やさなければならないというのは、教育環境部会で話し合い、現実的に難しいということで諦めた部分ですので、まちづくり部会としては、学校を残すためにできることを発展的に話し合っていかなければならない。部会員にはそれぞれの立場があるわけですが、中学校が無くなれば中学生が減るだけでなく、高校生も減るわけで、そうするとコンビニエンスストアや旅館でのアルバイト人材も減ってしまう。観光はこの町を動かしている部分がありますので、影響は大きいと思います。例えば、昔のように大規模校のメリットを生かす教育はできないけれど、小規模校のメリ

ットを生かすことで、学校を存続させることはできないか。小中一貫校の設置が可能かどうかということだけではなく、それも一つの案として検討する余地があるのか、そういった話もさせていただけたらと思います。

○部会長 ありがとうございます。お示した議論の方向性の内容に即して言えば、最後の結びの部分、学校を残すために地域活性化策をもっと議論すべきということかと思っています。

○委員 あくまでもまちづくり部会ということで発言しますが、中学校の統合の話が持ち上がったこと自体はもちろん良いことではないわけですが、この部会でまちづくりに特化して話すことになったことについては、この地区にとっては大きなチャンスだと思っています。これまでも登別地区では、市の協力も得ながらヌプルの建設を実現したり、駅前通りにも新しい店ができたりと、少しずつ町も変わろうとしておりますが、もっと町を良くしていかなければならないと思っています。もちろん登別中学校が存続することは大前提ですが、いよいよ後が無くなってきたのかなと切実に感じています。この部会としては、登別中学校の存続が必要という結論になるわけですが、存続という結論を出しただけでは意味がないと思っています。これを機に、まちづくりの話を深くしなればならないと思っています。小中一貫校の話が出ていましたが、仮に小中一貫校を設置したとしても人数は変わらないわけですから、またすぐに同じ問題が出てくるはずで。教育環境部会の方でもそうだったのですが、学校が無くなるのは寂しいではなくて、学校を残すために具体的に何をしなければならぬのか、そういった話までしなければ駄目だと思っています。

○委員 小規模校のデメリットとしては、競争意識の低下や人間関係の固定化ということが挙げられるわけですが、例えば部活動については、生徒数の減少で学校単位で活動するのが困難な状況にあるので、地域にクラブを立ち上げて、複数の学校が集まって行う動きが出ています。同じように、通常の教育活動についても、学校単位の教育活動と複数校での活動を組み合わせることで、小規模校のデメリッ

トを補完することはできないのか。それができれば、小規模校のメリットを生かしつつ、学校を存続させることが可能になるのではないかと思います。部活動については、今後2～3年の間に議論を進めていくとのことですので、2～3年後といえば、ちょうど登別中学校の統合が想定されている時期とも重なりますので、この方法は議論の余地があるのではないかと考えています。そうした話をこの部会でするのが良いのか、あるいは委員会本体でするのが良いのかわかりませんが、ぜひしてみたいと思っています。

○部会長 部活動と同様に、複数校が連携することで小規模校のデメリットをカバーできないかというお話でした。他にありませんか？

○委員 この部会の結論は、登別中学校は存続することが必要ということだと思います。その上で、どのような形で存続させるのかということですが、これまで出てきた話の多くは教育の中身の話ですので、これはまちづくり部会で話すことではなく、委員会本体で話すべきことだと思います。この部会としては、残すためにどうすればいいのかということをもちづくりの観点から話すべきだと思います。この部会としては、存続が必要ということだと思います。

○委員 反対している大きな理由としては、距離の問題があります、幌別小学校と幌別東小学校を統合するのは違うんです。登別から幌別、登別温泉から幌別の距離を考えていただきたい。車を持っている人間はそう感じないのかもしれませんが、子どもたちはそういうわけにはいきませんので、親は送り迎えをしなければならない。子どもたちが送り迎えを必要とする時間は、親にとってはちょうど働いている時間ですので、結局は子どもたちの活動が狭まってしまう。今でもそうしたハンディキャップを抱えているのに、さらに遠距離となったらどうなるのか。そういうことを全然考えていないということを伝えたい。

○部会長 委員に少しまとめてもらいましたが、この部会としては、統合に反対するというのが基本になると思います。その上で、中学校存続のためには地域の活性化

が必要なので、そのためにはどうすればいいのかを考える。いまは中学校の話ですが、このままでは小学校にも波及するかもしれない状況ですので、地域活性化策を具体的に話さなければならない。ただ、今後の議論の方向性でも申し上げていとおろ、具体的な地域活性化策を話すにはこの委員会では限界がありますので、市の担当部局の協力も得ながら、そのための新たな協議体を立ち上げてはどうかと。また、ここまで出てきた教育環境の話については、委員会本体で議論していく。そういうことでよろしいでしょうか？

○委員　もう少し議論すればいいのではないのでしょうか。まだもう少しやりたい。

○委員　まちづくり部会としては、もういいのではないかと思います。あとは委員会本体で、教育環境部会の結論とすり合わせた時にどう整合性をとっていくのかだと思います。まちづくり部会としては、もう結論を出していいと思います。

○部会長　よろしいですか？

○委員　今日は2名来てないでしょ。

○事務局　部会としてはもう結論を出していいのではないかという意見がある一方、欠席者もいるので時期尚早ではないかとの意見もありました。そこで事務局から提案ですが、2月にもう一度会議を開くこととし、その間に、本日の議論を踏まえて、部会長と事務局で議論のまとめ（案）を作って、次回会議でお示しして、皆さんから了解を得るということでいかがでしょうか。

○部会長　よろしいでしょうか？

○委員　教育環境部会としては、統合すべきという結論になったわけですが、まちづくり部会としては、中学校存続のために何をすべきか、地域活性化のために何をすべきかを話さなければならない。学校のランドデザインではなく、町のラン

ドデザインをどうするかを話さなければならないと思います。

○部会長 よろしいでしょうか？

○事務局 これまでの議論をまとめさせていただきます。部会長と事務局で、議論のまとめ（案）を作成し、次回会議で皆さんにお示ししたいと思います。その内容ですが、この部会としては、登別中学校の統合に反対し、存続が必要と結論づける。これが前提になると思います。ただ、そうはいつでも、学校は一義的には子どもが教育を受ける場ですので、小規模化で教育現場に影響が生じている中であっては、まちづくりのためとはいえ、子どもを犠牲にして学校を残すということにはならない。ですので、学校を残すためには、残すにふさわしい環境が整うようにしなければならない。つまりは生徒数の増加を図らなければならないので、地域活性化策に取り組むことが必要と結論づける。ただ、地域活性化策を具体的に検討するにはこの委員会では限界がありますので、活性化策を話し合うための新たな協議体を立ち上げて、市の担当部局の協力も得ながら、具体的な検討を進めるべきという内容でまとめるということによろしいでしょうか。

○部会長 その内容で部会長と事務局でまとめ（案）を作成しますので、次回、それについて協議したいと思います。次回日程について、事務局よりよろしいですか？

○事務局 さきほどからお話ししているとおり、部会長と事務局で作成する内容を基に、次回会議でこの部会の議論をまとめることになろうかと思います。具体的な日程ですが、2月27日、月曜日、時間は本日と同様13時半から、場所も本日と同様、婦人センターということでいかがでしょうか？

(異議なしの声あり)

○部会長 それではこれで終了します。長時間にわたりありがとうございました。